

## ■効果の見える治水事業

みやごうち

### 宮川内ダム堰堤管理事業

徳島県県土整備部 東部県土整備局 局長 いしもと のぼる  
石本 昇



宮川内谷川は、徳島県阿波市の阿讃県境に源を發し、旧吉野川に注ぐ延長 19km、流域面積 75.7km<sup>2</sup> の河川です。

古くから水害による甚大な被害を受け、治水が早くから要望され、また一方ではしばしば干ばつにも見舞われ、用水の不足も訴えられていました。

これらを解決すべく、[宮川内ダム] が昭和 39 年に多目的ダムとして完成しました。その後、ゲートの改良、底部放流設備の設置等、施設整備を行い、平成 15 年度に完了し、現在に至っています。

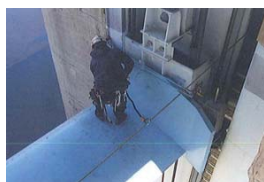
#### 《ダムの概要》

目的 洪水調整、かんがい  
諸元 型式：直線重力式コンクリートダム  
堤高：36.0m、堤頂長：130.0m  
総貯水量：1,350,000m<sup>3</sup>  
集水面積：23.14km<sup>2</sup>



#### 《安全・安心のためのダム管理》

当ダムは昭和 39 年完成後、堰堤管理事業によりダム管理施設の点検・修繕、及びダム湖内の流木撤去、水質・堆砂量調査等、治水・利水のため適切なダム管理に努めています。



#### 《親しまれるダム》

近年、自然環境への住民意識が高まり、地元ボランティアによる保全活動も行われ、水と緑の自然に囲まれたダム湖周辺は散策の場、あるいは湖面レクリエーション等々に利用されて人々の憩いの空間となっています。

また、ダム施設は小学生等の環境学習の場として活用されている他、町内会等の幅広い層の人々のダム見学会にも応えています。



## 「安全・安心のまちづくり」を目指して

徳島県阿波市長 野崎 國勝



阿波市は、讃岐山脈を背に、吉野川を望み、水と緑の豊かな自然に恵まれ、温暖な気候と肥沃な土地を生かした農業は数々の農産物で県内生産量 1 位となっています。また、学術的にも希少な特殊地形で国の天然記念物でもある「阿波の土柱」は、自然の雄大さを満喫できる絶景であり、七番から十番までの「四国霊場札所」は人々を癒してくれます。

阿波市の宮川内谷川には、徳島県で管理を行っている宮川内ダムがあり、治水、灌漑を目的として昭和 39 年にできた人造湖です。宮川内ダムはダム公園として、春には新緑、秋には紅葉、四季折々に周辺の山々の姿を湖面に写し出し、美しい風景を生み出しています。

このような地域資源を活用して、魅力ある未来を築くため、阿波市総合計画を策定し、本市の将来像「あすに向かって人の花咲くやすらぎ空間・阿波市」を実現するため、市民と一体となったまちづくりを進めています。

本計画では「安全・安心のまちづくり」を重要目標の一つに掲げ、市民の生命と財産を守る災害に強いまちづくりを推進するため、消防団施設の充実や女性消防班の結成、自治会単位での自主防災組織の結成や訓練等活動の支援など様々な防災・減災対策に取り組んでいるところです。

また、平成 26 年度末の完成を目指しています新庁舎は、市民の安全と安心を守る災害時の拠点施設となるため、免震構造の採用や非常用発電設備を設けるなど、災害に強い庁舎となります。併設する交流防災拠点施設は、多目的ホールや研修室などを設け、平常時には市民の交流拠点として、災害時には各避難所への支援物資の搬送や災害ボランティアの活動等、人と物資の拠点機能としての役割を担い、災害時に柔軟な利用ができる施設として整備します。

今後も引き続き、市内の災害時に利用できる井戸の調査、防災マップの作成など安全・安心のまちづくりに積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

### ○消防団の活性化

広報・啓発活動等を通じて消防団活動に対する市民の理解と協力を求めながら、団員の確保対策の強化や研修・訓練の充実による資質の向上など、消防団活性化対策を推進します。(平成 23 年 4 月から阿波市消防団では女性消防班を組織し、女性の視点に立ち、地域の安全・安心を守る担い手として活動しています。)



### ○防火・防災意識の高揚と自主防災組織の育成

広報・啓発活動の推進や防火・防災訓練の実施を図るとともに、地域防災の要となる自主防災組織の育成及び活動支援を重点的に行い、市民の防火・防災意識の高揚と自主的な備えの促進、地域ぐるみの防火・防災体制の確立に努めます。

